

奈良県植物研究年譜

川 端 一 弘

奈良植物研究 第24・25号 別刷

平成14年3月

## 奈良県植物研究年譜

川 端 一 弘

奈良県における植物の記載は、記紀を初見に、『万葉集』、勅撰和歌集、私家集などその後多くの書物がある。それらは文学的な内容が大部分である。本草学が本格化した江戸時代には幕府の薬草調査が行われ、薬草園が数藩で経営された。民間では松山藩（現大宇陀町）に森野薬草園が開かれ、現在にその姿を残している。これらについては、多くの先学があり多方面からの研究がある。

奈良県植物研究の年譜を作成するに当たり、ここでは本草学の時代以前にはふれずに、開始時期を近代植物学が始まったといえる明治10年東京大学創立以降に求めた。また万葉集や八代集などの

植物記載に関する研究は奈良県に関するものでも除外した。年譜は終戦の昭和20年までを区切りとして、戦後から現在までの50年間にはおよんでいない。膨大な資料収集が必要となる近50年間は、今後の課題であり会員諸氏に期待したい。

年譜作成の資料として、奈良産業大学北川尚史教授からは参考資料を多くいただいた。また瀬戸剛先生からは多くの資料をご紹介いただき、植物分類学についてご教授をいただいた。会員の山本修平氏、富永明良氏、東京大学大学院総合文化研究科篠田真理子氏には資料収集にご協力いただいた。この場をお借りし深謝申し上げます。

奈 良 県 植 物 研 究	関 連 事 項
<p>○明治16年（1883）</p> <p>・7月 松村任三、大久保三郎（東京大学御用掛、この年に両人は助教に選任されている）は奈良、和歌山、三重にわたる植物採集を行った。この採集旅行で採集された種は500種にのぼり、その後の研究により新種であることが判明したものが多し。明治十年に創立した東京大学は植物学に矢田部良吉を教授として迎えた。矢田部は植物標本の蒐集をゼロからスタートした。各地へ植物採集を行ったが、その多くは松村任三や大久保三郎等が随行した。日本植物分類学の端緒がきっておとされたのである。</p> <p>奈良県は春日山の20種と大和川のカワラハンノキが明記されている。また春日山で採集した標本のうちから、牧野富太郎によりタニヘゴほか3種が、新種、新属新種として、中井猛之進によりヤマトテンナンショウほか、新種記載の標本として記載されている。このように両氏が採集した標本からは、後に多くの新種の記載がなされた。<sup>注1)</sup> 松村任三・大久保三郎「和紀勢三州植物採集報告」『学芸志林』13。</p> <p>○明治20年（1887）</p> <p>・田中壤『校正大日本植物帯調査報告』 北海道を除く日本全土の本木植物の現況を調査したもので、大日本山林会報告に掲載されたのを纏めたものである。奈良県については吉野林業の詳細な報告があり、また春日神社のナギ林について、天然林ではないという的確なる見解が記載されている。</p> <p>・8月28日 三好学の伊勢、紀伊の植物採集行。高野山より吉野山に至り、如意輪堂を見て帰るとある。次の日には春日山へ至っている。採集の</p>	<p>明治4年（1871） 春日山国有地となる</p> <p>明治6年（1873） 1月15日 政府は府県に公園を開設するように通達する（太政官布達）</p> <p>明治10年（1877） 東京大学創立</p> <p>明治13年（1880） 奈良公園開設</p> <p>明治15年（1882） 2月、東京植物学会創立</p> <p>明治20年（1887） 『植物学雑誌』創刊 大阪府より奈良県分離</p>

主体は伊勢，紀伊にあり，奈良は帰途の旅の過程に立ち寄ったようである。「八月廿八日（中略）春日山，三笠山に採集す」とあり，日程から推量して数時間の観察であったが，幾種類かの採集をした。三好学「伊勢紀伊植物採集紀行」『植物学雑誌』1(10)：190-205.

○明治21年（1888）

・桜井半三郎，大和紀州伊勢地方調査。近代植物学最初の山上ヶ岳植物調査。山上ヶ岳は植物観察に良い場所と報告している。「つばめをもと，やはずあぢさい，もみぢからすうり，むしかり，ゆりわさび，さんかやう，ごぜんたちはな，いわかがみ，いちげさう，みやまかたばみ，おしやごしでんだ」等を採集した。他に大和ではこたにわたり，よろひらん，くものすしだを採集した。（桜井半三郎はホソバイヌワラビの基準標本（伊勢外宮1913）の採集者。『植物分類地理』2：22）雑録「会員帰京」『植物学雑誌』2(17)：146-147.

○明治26年（1893）

・7月 白澤保美 大和国吉野郡大字龍の谷近傍（奈良県吉野郡上北山村大字白川竜の谷）の山中にてトガサワラ発見。発見地は従来不明とされていたが、『尾鷲市史』下巻201-202より上北山村白川とした。下流の尾鷲市側は柳の谷となっており，現在の国土地理院の地図では上北山村も柳の字が使用されている。「新種ノ日本産松柏科植物」『植物学雑誌』9(96)：41-43，「新種ノ日本産針葉樹」『大日本山林会報』146：59-63.

○明治28年（1895）

・7月14日～9月1日 白井光太郎の駿河，遠州，和州，紀伊地方の植物調査。大峰山系の調査は桜井半三郎に続くものである。8月6日，仏教ヶ岳にてオオヤマレンゲを発見した。「大和吉野より大台原山，釈迦岳，彌山，山上岳を経て再び吉野に出づる記」『山岳』2(2)，「駿遠和紀採集植物之記」，『植物学雑誌』10(107)：112-114，「おほやまれんげに就て」『史蹟名勝天然紀念物』3(3).

○明治31年（1898）

・6月18日 フォーリー奈良にて採集。クサイチゴ，オタルスゲなど12種標本が京大標本室に保管されている。（角田充「フォーリー神父植物採集年譜」『植物分類地理』43：59-74，京大標本室角田氏調査）

○明治32年（1899）

・5月15日～16日 フォーリー奈良にて採集。ヤブデマリ，ナチンダ，コミヤマスマミレなど27種が京大標本室に保管されている。（前出）

○明治34年（1901）

・平野鈴吉「大台ヶ原」『大日本山林会報』227：26-30 大台ヶ原の地理，歴史を簡略に紹介し本多静六の森林植物帯の説に従って大台ヶ原の垂直植物帯を紹介している。入之波より約一里にして，之より大台ヶ原山頂までは斧鉞の入らない天然林であることを記録している。まだ開発が及ばない頃の記録である。

○明治41年（1908）

・10月9日 二階重樓，多武峯にてハガクレツリフネ採集。この標本は東大に送られ，1911年牧野富太郎が『植物学雑誌』25：153-154にハガク

明治21年（1888）

春日山が奈良公園に編入される

明治22年（1889）

10月，東海道線開通

明治25年（1892）

大阪－奈良間，鉄道開通

明治29年（1896）

京都－奈良間，鉄道開通

明治32年（1899）

奈良－桜井間，鉄道開通

明治33年（1900）

春日山周遊道路完成

春日山，芳山地区，一部の花山地区伐採される

明治39年（1906）

三好学「名木の伐滅併に其保存の必要」『東洋学芸雑誌』

レッツリフネを新種として記載したとき引用された。

○明治42年(1909)

・2月 谷野金之助「和州大峰山採集記」『博物之友』59:21-25 谷野は明治39年と明治41年に二回登山したと記している。八月二六日に天王寺を出発し、吉野口駅より徒歩で吉野山に入り、山上ヶ岳に登った。道中に観察した植物を記載している。文中に「一昨年ノ登山ノ際」とあることから、明治41年の記録が中心であろう。白井の記録に続く大峰山の記録である。

○大正元年(1912)

・10月6日 宮崎素(奈良女子高等師範学校附属小学校訓導)三笠山にてホンゴウソウ採集。(『大和植物志』118, 牧野富太郎『植物学雑誌』27:316による)

○大正2年(1913)

・9月 フォーリー吉野, 大峰山系にて植物採集。アスヒカズラ, イワヘゴ, ヤマイタチシダ, ヤマソテツ, サラサドウダン, ミヤマシグレ, ササクサ, ヒナノスツボ, ミヤマママコナなど65種の標本が京大に保管されている。(前出)

○大正4年(1915)

・8月 竹下英一「大峰の花木」大阪毎日新聞の大和アルプス踏破隊に参加し, 新聞に連載。

・8月13日 小泉源一, 仏経ヶ岳にてシラネワラビ, シラビソ, キレンゲショウマ採集。(京大標本, 『植物学雑誌』30:326, 『植物研究雑誌』9:527-529)

○大正5年(1916)

・4月9日~12日 吉野山保勝会主催「史蹟名勝天然記念物保存」に関する講演会。徳川頼倫, 白井, 三好, 関野来県し講演。白井光太郎『吉野名山の保護について』, 三好学『吉野山の櫻花と其保存』, 関野貞『吉野山の古社寺に就きて』(『史蹟名勝天然記念物』1(11), 「吉野名山の保護について」『太陽』8, 『吉野群峯』, 『大和アルプス並に大台ヶ原』, 『国立公園候補地吉野群山』に各転載)

○大正6年(1917)

・2月15日 鈴木静穂「大和アルプスの植物」『吉野群峯』大正四年の大峰山系, 大台ヶ原踏破した時の植物観察記。大和アルプスの植物目録が記載されている。

・7月30日~8月2日 徳川頼倫, 白井光太郎, 川瀬善太郎等, 原始林保存法の研究調査及植物採集目的として大台ヶ原登山。10月13-14日の項参照。

・8月4日~6日 吉野郡主催 大台ヶ原山夏期講演会。白井光太郎『名山大台ヶ原の保護』(『史蹟名勝天然記念物』1(23), 『山嶽』5, 『白井光太郎著作集』, 大阪朝日新聞, 奈良新聞)

・8月12~15日 岡本勇治, ハリギリ, クロヅル等彌山, 大峰山の記録。(『大和植物志』)

・10月13日~14日 史蹟名勝天然記念物保存協会第7回講演会。大台ヶ

明治44年(1911)

3月11日 「史蹟名勝天然記念物の保存に関する建議案」貴族院に提出される史蹟名勝天然記念物保存協会創立 徳川頼倫会長, 三好学, 白井光太郎等。会報や講演会等を通じて自然保護思想の啓蒙運動を行い, 法律の制定を要請する

大正2年(1913)

吉野山保勝会設立 会長谷原岸松吉野郡長, 顧問に三好学, 白井光太郎, 関野貞を迎える

7月28日 「奈良県史蹟勝地調査会規則」制定公布

10月 吉野軽便鉄道開通, 吉野口-六田間。大阪から乗り継ぎで大峰山系の入口まで繋がった

大正3年(1914)

大阪電気軌道(株)上本町-奈良間の鉄道完成

大正4年(1915)

日本山岳会10周年関西大会開催, 大和アルプスブーム起こる

7月26日-8月4日 阪本仙次, 木本光三郎, 岩本武助, 伊藤忠兵衛, 岸田日出男, 鈴木静穂等17名の大峰山系, 大台ヶ原登山

大正5年(1916)

『植物研究雑誌』創刊

大正6年(1917)

(株)松山自動車商会 桜井-松山(現大宇陀)12.4kmのバス輸送開始, 県下バス事業の最初

10月29日 「全国公園主事

原・春日山の植物標本の展示、『史蹟名勝天然記念物』1(26)には目録が掲載されている。川瀬善太郎「大台ヶ原山の森林観」と白井光太郎「名山と天然記念物」は大台ヶ原トウヒ林関連の講演を行う。『史蹟名勝天然記念物』1(25), 1(26), 2(2), 2(3)。

・12月 中井猛之進は、岸田松若が室生で採集した標本によりムロウテンナンショウ、同じく岸田松若が室生山と春日山で採集した標本によりムロウマムシグサ、さらに松村任三・大久保三郎が春日山で、岸田松若が室生山で採集した標本によりヤマトテンナンショウを新種発表した。(『植物学雑誌』31:284-285)

#### ○大正8年(1919)

・8月 鈴木静穂、大峰山系植物採集行。この時すでに鈴木は奈良師範学校を去り(明治42年4月5日~大正6年3月31日勤務)、豊島師範学校に転任していた。この大峰山系行には岩本武助の援助があり、岩本は植物園を建設する予定で標本を蒐集していた(大阪朝日新聞大和版)。標本は岩本家の火災のため消滅した(岩本助幸氏(武助孫)談)。

・10月19日 和漢薬研究会(石崎勝蔵、米谷楯次郎)主催の春日、若草山の採集会。牧野富太郎が招聘され、岡本勇治は牧野から『在識真』結網の署名がある色紙をもらう。『大和植物志』牧野の序の文中、「或は奈良公園入口の菊水旅館に宿せし際云々」のことはこの時の出来事であろうか。岡本と岸田英夫(日出男)と出会う。当時、大阪薬学専門校に在籍していた上野益三(1900年生、当時19才)のタニヘゴ標本が大阪市自然史博物館に所蔵されている。タニヘゴについては明治16年の項参照のこと。(大阪朝日新聞大和版)

・同 服部哲太郎「大台原山植物採集記」『理学界』17(2):146-150  
大正四年に大杉谷より登山し尾鷲に下山、大正六年八月には柏木より登山を行い、観察記録したもの。大台ヶ原山頂だけでなく登山途上の植物も含まれている。大正四年の登山は『吉野群峰』に同行の谷本米洲(亀次郎)の登山記がある。大正六年は吉野郡主催の大台ヶ原夏期講習会に参加したものであろう。

#### ○大正9年(1920)

・4月1日 山鳥吉五郎「大峰山植物採集記」『博物学会誌』28:32-39  
「今歳暑中休暇に」採集旅行をしたとあり、前年の観察記録であろう。山上ヶ岳のミヤマウラボシ、ヒモカヅラは「いづれも其数少なければ」とあり、当時も貴重なものであったことが知られる。

・7月20日~30日 吉野郡役場は天然記念物に関して大峰山系の植物調査を草野俊助に依頼。草野は尾鷲より大台ヶ原に入り、池原をへて大峰山系へ。大台ヶ原ではオオヤマレンゲを発見した。(大阪朝日新聞大和版)

・7月23日 草野俊助、池原寺垣内小学校にて「天然記念物保存」を講演。(大阪朝日新聞大和版)

・7月30日 県郡合同主催の青年団指導者夏期講習会開催。草野俊助「天然記念物に就て」、牧野富太郎「植物に就て」講演。(大阪朝日新聞大和版)

・8月1日~ 奈良県農林学校主催・高取山植物観察会。牧野富太郎は

大会」奈良公園にて開催

#### 大正8年(1919)

京都帝国大学理学部生物学科できる。開講は大正10年4月9日「史蹟名勝天然記念物保存法」制定公布  
10月9日 内務省は史蹟名勝天然記念物調査会委員を任命、三好学、白井光太郎、川瀬善太郎等

講師として招聘される。高取山のほか大峰山系や室生山で採集を行った。岡本勇治同行（大阪朝日新聞大和版）。牧野は「玉菊一名菰野菊 和州山上ヶ嶽産 大正九年八月二日採 牧野結網略画」と記した図を岡本に残している（岡本他久児氏所有）。『大和植物志』には、牧野富太郎 イワカガミ、大峰山、高見山、釈迦ヶ嶽、大黒岩、双間ノ瀧付近にて採集。岡本勇治、ヤノネシダ、山上ヶ岳・洞川間で採集の記載がある。『田代善太郎日記』には、牧野から田代への私信が巻末資料に掲載されている。

・同 伏見正太郎、マルバイヌワラビ、春日山にて採集。『植物分類地理』2(1)。

#### ○大正10年（1921）

・7月20日～27日 吉野郡主催「天然記念物保存夏期講演会」十津川村を中心に開催。（講師吉井義次理学士）

・8月4日～7日 天然記念物調査のため、岸田日出男、岡本勇治、斎藤和雄（県立農林学校教諭）大峰山系の調査。（大阪朝日新聞大和版）

・9月1日～11日 白井光太郎の天然記念物指定候補地の調査。岡本勇治、岸田日出男等が同行。白井は岡本に色紙を残す。「大正十年九月 天然記念物調査ノ命ヲ蒙リ吉野山中白川又ニ至リシ時、伐木ノ状慘憺タルヲ見テ作之 白井光太郎 幾千登世多津岐毛知奴深山木乃数乎尽志天伐留々曾宇志」（岡本他久児氏所有）。この時の行程は岸田の「白井光太郎先生を憶ふ」に詳細な記載がある。（『山嶽』6、『史蹟名勝天然記念物』1(23)、『天然記念物調査報告』9）

・10月 牧野富太郎、春日山にて採集を行う。（伊藤、1974）京都大学理学部標本庫には牧野標本館から寄贈されたデンジソウ、アカウキクサの標本がある。

・10月10日 岸田英夫「仏経ヶ嶽に於ける植物分布状態」を発表。『史蹟名勝天然記念物』4(10)、『奈良県教育』160。先9月の白井の天然記念物調査に同行したときの記録である。仏経ヶ岳の各標高ごとによる植物記載があり、『奈良県教育』がより詳細である。

・11月10日 白井光太郎「奈良県吉野郡に於ける天然記念物中植物に就て」『史蹟名勝天然記念物』4(11) 先の天然記念物候補地調査と明治28年の大峰山系の調査に基づいて記載されている。内務省へ、仏経ヶ岳原始林を天然記念物に指定するために、同趣旨の報告がなされている。

#### ○大正11年（1922）

・1月 三好学「ナラノヤエザクラ」を発表。『植物学雑誌』36:10

・4月12日 奈良県主催「櫻の会」開催。桜に関する展覧会、講演会が奈良市で開催された。三好学、大谷光瑞、国府種徳が来県。岡本勇治も桜に関する出品の審査員になる。三好学は「美しき櫻と其来歴、吉野の櫻と其保存」を講演 『奈良県教育』119。三好は岡本へ「国華保存 大正十一年四月十二日奈良県主催櫻の会を了りて 三好学」の色紙を残す（岡本他久児氏所有）。

・6月2日 小泉源一金剛山採集行、ヤマトグサ採集。岡本勇治、シラキなど7種が『大和植物志』に記載。

・6月14日～ 吉井義次、氷見健一、岸田日出男の仏経ヶ岳調査。

#### 大正10年（1921）

3月9日 岡本勇治、岸田日出男、奈良県史蹟勝地調査会地方委員を嘱託される

#### 大正11年（1922）

3月8日 奈良公園が名勝に指定される

8月16-28日 田村剛、奈良県の国立公園候補地を調査

10月12日 仏経ヶ岳原始林天然記念物指定。奈良県天然記念物の第一号

10月25日 大和山岳会発足、『山嶽』1号発刊

・7月9日～21日 小泉源一の吉野群山植物調査。岡本、岸田同行。7月3日、小泉達は先に室生で採集を行っている。昨年、岡本が発見したイヨクジャクを採集することが目的であったようだ。小泉の標本が京都大学理学部標本室にある。7月13日、川上村山上ヶ岳・柏木間にてヒメイノモトソウを発見、この標本によって1935年田川基二は『植物分類地理』4:204に台湾のホソバイノモトソウの変種として記載（HOLOTYPE標本、京都大学理学部標本室蔵、のちに1935年『植物分類地理』30:280で独立の種とした）。7月14日、西原一彌山にてシラネワラビ採集。7月22-25日、大台ヶ原にてスギラン採集。（京大理学部標本室、『山嶽』5）

・7月 三好学「春日神社ノなぎノ樹叢」（1916.1調査）発表。『天然記念物調査報告』3。

・7月21日 鈴木静穂・岩本武助「大和アルプス大台ヶ原山植物目録」『大和アルプス併に大台ヶ原』 地域は記載されていないが、大峰山系、大台ヶ原の植物目録である。

・7月22日 三木茂、春日山にてミズユキノシタを採集。9月20日には春日にてヒメビシを採集。三木の奈良県における水草の調査の最初であろう。<sup>注2)</sup>

・9月 小泉源一吉野郡植物調査。岡本勇治等は妹山樹叢にてツルマンリョウを発見し、小泉が次年に新属新種として発表した。後年、すでに台湾で発見されていたツルアカミノキと同じと判明した。（『植物学雑誌』37:40、岡本勇治「妹山原生林植物調査報告」「天然記念物妹山樹叢」『奈良県公文書』、『奈良県公文書』岡本の調査報告は川端（2001）参照）

・10月25日 小泉源一「大和の山岳」、岡本勇治「吉野群峯に於ける植物分布」『山嶽』1 前者は小泉が襲速紀という概念を最初に示した記念すべき一文である。第五章にその特色を示す植物が紹介されている。岡本は大峰山系、大台ヶ原の植物目録を記している。

・11月7日 三好学、師範学校のナラノヤエザクラを調査。天然記念物指定申請から削除される。さらにナギ林を観察。（大阪朝日新聞大和版）

#### ○大正12年（1923）

・3月18日 三好学 月ヶ瀬遊覧、『梅溪保存』学軒の色紙を岡本へ残す。（岡本他久児氏所有）

・4月18日 「櫻の会」吉野にて開催。県教育会・吉野郡教育会・吉野山保勝会による講演会開催。三好学「吉野山の桜」講演。

・4月 小泉源一はツルマンリョウ、ウスギノナツノタムラソウ（山上ヶ岳）、ハイコトジソウ（金剛山）、マツラゴメグサ（大台ヶ原）、ホソバツツゲ（八経ヶ岳、大台ヶ原）、ホソバノギク（瀧峡）、オオミネコザクラ（吉野郡山中、岡本勇治採集）を新種記載した。オオミネコザクラは『大和植物志』には釈迦ヶ岳（空鉢ヶ岳、椽ノ鼻、1921.8.7.岡本）とある。現在ではコイワザクラの変種として扱われることが多い。（『植物学雑誌』37:40-54、北川（1997））

・5月3日 岡本勇治「大台ヶ原の地質と植物分布」『世界の名山、大台ヶ原』大台ヶ原の植物を標高下別に概略し、目録を載せている。文末には吉野群峯植物区系の試論が附され、前年に小泉が発表した「襲速紀」

#### 大正12年（1923）

3月7日 知足院ノ奈良八重桜、春日神社境内竹柏樹林天然記念物に指定

5月15日 内務省囑託吉井義次、春日山原始林伐採問題実地調査のため来県

の言葉を記し「夔速紀系統の植物分布」に触れている。

- ・ 5月5日 三好学, ナラノヤエザクラの花を観察するため来県.
- ・ 5月13日 奈良博物研究会主催, 金剛山植物採集会. 『大和植物志』には岡本勇治ウスバサイシン, 米谷ナベワリの記録がある.
- ・ 同年? 岡本勇治『春日山原始林植物調査報告』発表. (謄写版印刷, 個人出版) 出版年にはなお検討の余地がある.

#### ○大正13年 (1924)

- ・ 2月 吉井義次が春日山原始林の調査のため来県. 『天然記念物調査報告』5.

岡本勇治「吉野群峯植物分布論 I (予報)」, 「将来の山岳旅行と吉野群峯の位置—吉野郡民の自覚と余の理想—」『山嶽』2 大峰山系の各地域に見られた植物を紹介している.

- ・ 9月 三好学「知足院ノ奈良八重桜」「櫻ノ名所, 吉野山ノ櫻」『天然記念物調査報告』4.
- ・ 9月23日~30日 小泉源一の吉野川上流域植物調査(白髪山, 北股川上流, 台高山系) 岡本, 岸田同行. 9月25日小泉, 伯母谷—白川渡間にてヤブソテツ(京大理学部標本室) 採集. (『山嶽』3)
- ・ 9月28日 久米道民は三笠山にてレンゲツツジを採集(1926. 5. 27にも採集している). <sup>注3)</sup>

#### ○大正14年 (1925)

- ・ 5月1日 岡本勇治, 三好学とともに吉野山桜故損原因調査. 「吉野山下ノ千本桜樹枯死原因に関する調査報告」. (奈良県公文書, 『天然記念物調査報告』6)
- ・ 6月7日 田代善太郎, 春日山にてヤマドリゼンマイ, ホソバイヌワラビを採集した. (京大理学部標本室, 『植物分類地理』2: 14『田代善太郎日記』)

#### ○大正15年 (1926)

- ・ 3月~ 岡本勇治「春日山原始林の生態的特徴とその保存に就て」1~5. 発表(『史蹟名勝天然記念物』1: 1-1: 5)
- ・ 7月26日 白井光太郎「奈良県下の植物調査報告」(「仏経ヶ岳原生林」「仏経ヶ岳タウヒ林」「前鬼牛抱坂に於けるシンラン其の他菌類羊歯類の附着せる樹林」), 吉井義次「春日山原始林植物調査報告」発表. (『天然記念物調査報告』5)
- ・ 同 三好学「吉野山の櫻樹の枯損に就て(附)「史蹟」森野旧薬園」発表. (『天然記念物調査報告』6)

#### ○昭和2年 (1927)

- ・ 5月22日 大阪植物同好会主催の葛城山採集会にて, 牧野富太郎カラギミ発見. 学名は会の幹事である竹下英一を記念して付けられた. 『大阪植物同好会会報』15: 7による. (「葛城山採集会」『大阪植物同好会会報』6: 1-10, 『田代善太郎日記』, 『大阪府植物誌』)
- ・ 5月 岡本勇治「吉野群峯植物分布論 II」『山嶽』4 岡本の「吉野群峯植物分布論」は多くの論文に I, II と参考文献に引用されているが, 現在まで『山嶽』4号は発見が困難である. 『山上』1(4): 40-41の雑録

#### 大正13年 (1924)

12月9日 春日山原始林,  
天然記念物指定



に目次の一部が記されている。原本の発見を期待したい。

- ・ 7月22-23日 白井光太郎, 十津川村田戸, 瀨峡調査. シシンラン調査.
- ・ 9月 岡本勇治, 三好学たちの妹山樹叢の調査. 10日, 岡本はイヌモチを採集した. 岡本勇治「妹山原生林植物調査報告」(11月18日調査補正とある)(『奈良県公文書』)
- ・ 同 久米道民「大和春日山原始林の植物」『博物学会誌』35: 15-18  
春日山の植物について概説したあと, 自身が調査した「大和春日山原始林樹木目録」を報告している.
- ・ 同 村井俊治「金剛山植物研究」 金剛山の歴史, 地理より説き起こし金剛山植物について記載. 目録には生育地の説明がなされている.

#### ○昭和3年(1928)

- ・ 1月25日 松村義敏『三輪山植物目録』 大神神社吉村宮司が発案し, 依頼されて調査したもの. 種子植物より地衣・蘚苔類までの目録となっている.
- ・ 2月 岡本勇治「日本に於ける国立公園の計画と原始的郷土美の保存に就て」『史蹟名勝天然記念物』3(2): 114-122.
- ・ 4月22日 田代善太郎吉野山, 妹山行. 妹山にてテンダイウヤク採集. 『田代善太郎日記』, 『大和植物志』.
- ・ 4月30日 三好学「妹山樹叢」『天然記念物調査報告』8.
- ・ 4月 三好学は室生山のイヨクジャクほか暖地性シダ群落の調査を行う. (『山嶽』5, 『天然記念物調査報告』9)
- ・ 5月13日 田代善太郎, 室生にてイワヤシダ, イヨクジャクを観察. 岡本勇治宅にて泊. (『田代善太郎日記』, 『植物分類地理』1(1)には日付不明, カタイノテ室生の記録がある)
- ・ 6月29日 白井光太郎・岡本勇治「吉野群山の地質及植物」.
- ・ 8月11日~ 内務省囑託本田正次, 吉野群山, 三之公川峡谷トガサワラ天然紀物調査行. 岡本, 岸田同行. (『山嶽』5, 『大和植物志』, 『天然記念物調査報告』10)
- ・ 同 原宮男「吉野山行 吉野山木本目録」, 「妹山行 木本目録, 羊歯植物目録」『大阪植物同好会』11: 4-8 原宮男が吉野山から妹山へ植物観察を行った記録. 吉水神社付近のスギ林にはツガ, タブノキの大木が混在しているとし, 妹山ではツルマンリョウの赤い実が目についたとしている.
- ・ 同 原宮男「室生山木本・羊歯目録」『大阪植物同好会』13: 1-7 大阪植物同好会例会記録. 田代善太郎指導, 岡本勇治案内で行われ, 記録している植物種はたいへん多い.

#### ○昭和4年(1929)

- ・ 2月 岡本勇治は『植物学雑誌』43: 71に妹山産の新種イヌモチを発表「A new species of Ilex in Yamato Province」. 本種は現在ではモチノキの変異に含まれるものと考えられている.
- ・ 4月 本田正次は自身が1928年十津川村で採集した標本と同年宇井縫蔵が瀨峡で採集した標本によってミギワガヤを新種として『植物学雑誌』43: 192に発表した.

#### 昭和3年(1928)

- 2月7日 オオヤマレンゲ  
自生地, シシンラン自生地  
天然記念物に指定  
シシンランの指定地(前  
鬼坂)は山火事により昭和  
5年7月29日解除. 昭和7  
年4月19日に小椋のシシン  
ランが天然記念物に指定  
3月24日 妹山樹叢, 天然  
記念物に指定  
7月12日 大阪電気軌道,  
奈良公園に12万円の寄付を  
決める  
8月8日 春日山周遊道路  
拡張改修工事着工  
11月30日 室生山暖地性羊  
歯群落, 天然記念物指定

#### 昭和4年(1929)

- 9月14日 春日山周遊道路  
二次拡張工事着工  
11月 文部省より三好学囑  
託, 内田囑託が春日山道路  
問題の調査に来県  
12月17日 三之公トガサワ

- ・ 6月 松村義敏, ミサキカグマを三輪で採集。(『植物分類地理』 4 : 97)
- ・ 8月15日 奈良県史蹟名勝天然記念物調査会総会. 岡本勇治の報告書。「春日山原始林植物調査報告」「妹山原生林植物調査報告」「室生寺境内暖地羊歯植物群落の調査」「宇陀郡具留尊火山群英閃安山岩柱状節理調査概報(予報)」「吉野三ノ公トガサハラ原生林調査報告」.
- ・ 8月24日 田代善太郎の大峰山採集行. この日の採集品から後にヤマトフウロ, ギョウジャアザミが発表される. 昭和11年1月の項参照。(『大和植物志』, 『田代善太郎日記』)
- ・ 12月26日 三好学「室生山暖地性羊歯群落」「白毫寺の五色椿, 春日神社のイチイガシ」, 白井光太郎「紫真蘭自生北限地, オオヤマレンゲ自生地, 瀧峡の原始林」『天然記念物調査報告』 9.

#### ○昭和5年(1930)

- ・ 1月3日 岸田日出男「三ノ公川峡谷トガサハラ原始林調査」『山嶽』 5 昭和三年, 本田正次の天然記念物調査行の同行記。『山嶽』 5 は表紙を替えて六月に『吉野群山』として発売された。
- ・ 1月 岡本勇治「奈良の春日山原始林の保存の廻遊道路改修問題に就て」(一), (二)『史蹟名勝天然記念物』 5(1) : 33-37, 5(10) : 879-896.
- ・ 4月25日 三好学「史蹟・森野旧薬園」, 岡本勇治「享保の面影を存する森野旧薬園の現況に就いて」『森野旧薬園小誌』.
- ・ 5月3日 本田正次「三之公川峡谷トガサハラ自生地」『天然記念物調査報告』 10.
- ・ 5月26日 三好学, 向淵スズラン調査. 岡本同行.
- ・ 6月 坂口総一郎, 入之波にてキレハオオクボシダ採集. 1932年, 小泉源一により新種として発表された.

#### ○昭和6年(1931)

- ・ 坂口総一郎が1929年9月10日大台ヶ原で採集した標本によって本田正次はオオダイトウヒレンを『植物学雑誌』 45:3に新種として発表した. 本種については北村四郎の研究(『植物分類地理』 2 : 179, 187『東亜植物図説』 5 : 145図版, 468-470) 参照.
- ・ 6月1日 岡本勇治, 向淵, 吐山のスズラン群落を調査す. 群落の保存管理に関する意見を求められ, 調査を行ったものである. 復命書「向淵・吐山すずらん群落調査」.
- ・ 6月 伊藤(1974)によれば牧野富太郎が室生で採集したシダ標本が牧野標本館に保管されている.
- ・ 11月10日 三好学, 三本松, 八房の杉, 宇賀志の渋ナンシガヤの調査. 岡本同行.
- ・ 11月26日 岡本勇治, 宇賀志眞證寺のシブナンシガヤの調査終了。「奈良県宇陀郡に於ける白珠榎の調査」『奈良県公文書』 眞證寺のシブナンシガヤについての研究調査で, 果実の剥離率などの研究を行い, 小野蘭山, 山本亡羊, 伊藤圭介など, カヤについて記載した江戸時代の本草家を紹介している.

#### ○昭和7年(1932)

ラ原始林, 天然記念物指定  
12月19日 文部省より春日山周遊道路工事中止の指示, 公園課は無視し完成さす

#### 昭和5年(1930)

7月27日 宇陀郡松山町(現大宇陀町)にて史蹟名勝天然記念物愛護講演会開催  
講師, 三好学, 上田三平, 岡本勇治  
11月19日 向淵・吐山スズラン群落, 天然記念物指定

#### 昭和7年(1932)

- ・ 1月30日 三好学「向淵スズラン群落」『天然記念物調査報告』13.
- ・ 2月15日 『第一期蒐集郷土研究資料目録』 奈良県師範学校郷土研究室が発刊したもの. 奈良県の各郡別に植物目録が記載されている. 奈良県全土に目が向けられているが, その内容は簡略である.
- ・ 3月4日 奈良県史蹟名勝天然記念物調査会総会. 岡本勇治の報告書. 「天然記念物妹山樹叢」「天然記念物三ノ公川峡谷トガサハラ自生地」「天然記念物向淵スズラン群生地」「天然記念物吐山スズラン群生地」「天然記念物室生山暖地性羊歯群落」『奈良県公文書』.
- ・ 4月20日 小泉源一は坂口総一郎が1930年6月に川上村入の波で採集した標本によってキレハオオクボシダを『植物分類地理』1:29に発表.
- ・ 5月12日 岡本勇治, 月ヶ瀬村クマガイソウを調査. 「天然記念物月ヶ瀬村クマガヒサウの調査」『奈良県公文書』 月ヶ瀬村より申請された指定申請書による調査.
- ・ 6月6日 近畿本草会創立総会. 於唐招提寺. 岡本勇治「大和菓草の分布に就て」講演. 『本草』創刊号.
- ・ 6月8日 岡本勇治, 月ヶ瀬村サツキを調査. 「天然記念物月ヶ瀬村五月川流域サツキ群生地の調査(予報)」『奈良県公文書』 月ヶ瀬村より申請された指定申請書による調査. クマガイソウ, サツキとも指定には至っていない.
- ・ 7月8日 岡本勇治, 鶯塚付近の林叢調査. 「新設道路附近ノ林叢調査書」『奈良県公文書』 春日山周遊道路の鶯塚への延長問題に対する岡本の意見書.
- ・ 7月10日 近畿本草会第二回例会. 於唐招提寺. 岡本勇治, 同寺の植物を案内. 湯浅奈良雄「高山植物と菓草」講演. 他に三講演. 『本草』2.
- ・ 8月2日~6日 近畿本草会第三回例会. 於大峰・稲村ヶ岳. 植物指導, 岡本勇治, 原宮男(大阪), 高橋真太郎(京都). 一日目, 洞川採集品記録. 二日目, 大峰山採集品記録並びに夜岡本勇治「吉野群山の植物分布」講演. 三日目, 伯母峯覗きを経て柏木, 採集品記録. (『本草』3)
- ・ 11月20日 近畿本草会第五回例会. 於唐招提寺から西大寺. 植物指導, 岡本勇治. 西大寺にて佐伯官長講演. (『本草』6)

○昭和8年(1933)

- ・ 2月 田川基二は『植物分類地理』2:16にホソバイヌワラビの新変種マルバイヌワラビを発表したが, このとき伏見正太郎が春日山で1920年に採集した標本が引用されている. この変種は現在ではホソバイヌワラビに含められ, 特に区別されない.
- ・ 5月21日 近畿本草会例会. 於石崎文庫. 岡本勇治「春日の藤とあせび」講演. (『本草』12)
- ・ 9月 北村四郎は大峰山で坂口総一郎が1929年9月に採集した標本と入の波・河合間で小泉源一が1921年7月17-21日に採集した標本及び四国産の標本によってコウスユキソウを新種として『植物分類地理』2:176に発表した.
- ・ 12月 田川基二は『植物分類地理』5:257にサイゴクイノデを新種として発表. 基準標本は田川基二によって室生で1931年6月14日に採集さ

4月 植物分類地理学会創立

4月25日 八房杉, 天然記念物指定

昭和8年(1933)

奈良山岳会発足. 『山上』  
発刊

れた標本である。

・同 伊藤 (1974) によれば、牧野富太郎が吉野大野村 (現室生村?) で採集したシダ標本が牧野標本館に保管されている。

○昭和9年 (1934)

・3月 三好学「三本松」「八房杉」「宇賀志の無波権」『天然記念物調査報告』14.

・4月10日 中川秀次・富川清太郎『大峰山脈と其溪谷』 中川と富川については「中川、大阪に住む若き真摯な登山家、富川、大阪出身の若き真摯な登山家」と『山嶽』10号の編輯後記にある。白井光太郎の天然記念物調査、小泉源一の大峰山系の主要植物と目録が記載されてある。

・同 井上光雄「彌仙・大台ヶ原を中心とせる植物相に就て」『紀州動植物』1(1):33-35 昭和5年の盛夏(8月?)に坂口総一郎や小川由一らと共に大峰山系より大台ヶ原に採集旅行を行ったもの。道中別に観察された植物が記録されている。

・同 伊藤 (1974) によれば牧野富太郎が吉野で採集したシダ標本が牧野標本館に保管されている。

・同 松村義敏「ツチアケビ奈良に産す」『植物趣味』3(3).

○昭和10年 (1935)

・小清水卓二「奈良春日山ノきよすみうつぼノ寄主ト胎座数ニ就イテ」『植物研究雑誌』11(9):654-658.

○昭和11年 (1936)

・1月 北村二郎は大峰山で採集された標本(田代善太郎1929年8月24日、坂口総一郎1932年9月、杉本順一1934年8月7日、黒川喬雄1935年8月12日、原宮男1925年8月25日)によってギョウジャアザミを新種として『植物分類地理』5:31に発表した。

・同 原寛は田代善太郎が1929年8月24日大峰山で採集した標本と坂口総一郎が1935年8月4日釈迦ヶ岳で採集した標本により、ヤマトフウロをシコクフウロの新変種として『植物研究雑誌』12(1):38に発表した。

○昭和12年 (1937)

・9月20日 『大和植物志』刊行される。

・同 松村義敏「クラガリシダ、ユキモチソウ多武峯に産す」『植物趣味』6(2) 村田保太郎の採集した標本による。

・同 久米道民「奈良県ノへらのきト其形態ニツイテ」『植物研究雑誌』13(12):923-927 奈良県でのヘラノキの発見を紹介して、形態を詳述したものである。奈良県でのヘラノキについての記事は、この文を基本として援用したものが多。

○昭和14年 (1939)

・10月 松村義敏「北和周辺の山と植物」『関西山小屋』40 ハイカーのために春日山、三輪山、金剛山などの特色ある植物を簡略で紹介したものである。現在では全く様相が変化して、紹介された植物の多くは見られない。

・10月20日 久米道民・神戸伊三郎『春日山動植物大観』 序に春日山とその付近の動植物概観を一般人に紹介するためとある。記述は簡略であ

昭和11年 (1936)

2月1日 吉野熊野国立公園指定

る。

・同 岩田重夫は田原本付近（旧平野村）のヒシの変異を研究。二変種を識別できると発表。（『植物研究雑誌』15(4)：245-252）

・同 加藤弥栄，高取山国有林でクラガリシダを，洞川でウラジロウコギを発見。（『植物研究雑誌』15(5)：335-336）

・同 北村四郎「イハギク大台ヶ原山大蛇峠に産す」『植物分類地理』8(3):195 1938年安井直康が採集し，小泉源一に提供した苗が，京大で栽培されて開花し，イワギクが奈良県に分布することが分かった..

#### ○昭和15年（1940）

・3月 庄司義親，室生にてオニイノデ採集。（京大標本）

・同 佐竹義輔は村田保太郎が採集した標本によりエゾホシクサが奈良，黒髪山に産することを報告。（『大日本植物誌6 ホシクサ科』）

#### ○昭和16年（1941）

・松村義敏『続大和植物志』（謄写版印刷）。

#### ○昭和18年（1943）

・1月 鶴丸鶴作（奈良県師範学校教諭）「佐保山附近の植物」「春日山附近の植物」「多武峯の植物」「金剛山の植物」「室生山の植物」「吉野山の他の植物」「笠置山の岩石と植物」「龍田川の紅葉について」『稽古照今』（県立図書館，奈良教育大所蔵） 師範学校の博物学の参考書として編集されたもの。鶴丸鶴作は，動物関係の論文があり，植物の専門家ではないが，標本をもとに各地域の植生が記録され，「佐保山附近の植物」などは記録が少ない地域で貴重な資料である。戦後にその標本が失われたのは残念である。

・5月26日 小清水卓二『大和の名勝と天然記念物』 巻末に奈良県の巨樹の一覧が付録として挿入されている。

・7月20日 米川千秋編『大台ヶ原山と大杉谷』 大台ヶ原の案内書であるが，小清水卓二は「植物景観」を紹介している。

#### ○昭和19年（1944）

・1月8日 米川千秋編『大峯山』 大峰山系の案内書，小清水卓二は「植物景観」を案内。大阪営林署が調査したものを主体とした「大峯連峯主要植物分布表」を載せている。

注1) 牧野富太郎が記載したもの。アマヅル (Aug. 2 日付に疑問がある) (新種) B.M.T.12 : 50-51, タニヘゴ (新種) B.M.T.13 : 81, カナクギノキ (新種) B.M.T.13 : 138-140, ヒメアギスミレ (松村・大久保) (新属新種) B.M.T.27 : . 中井猛之進が記載したもの。ヤマトテンナンショウ (新種) B.M.T.31 : 285, ムラサキニガナ (新種) B.M.T.34 : 155, ほかに記載された標本はウチワゴケB.M.T.40 : 239, マメヅタB.M.T.40 : 371, ツクバネガシB.M.T.40, コシダB.M.T.41 : 695, ウツボグサB.M.T.44 :

19-20. (B.M.T.『植物学雑誌』略称)

注2) 『大阪市自然史博物館収蔵資料目録』10 「三木茂博士寄贈水草腊葉標本目録」1978により奈良県に関する記録を抜き出すと，1922前出，1923.4.8.ホソバミズヒキモ，奈良カエルマタノ池，1923.9.8.ヤナギスブタ，西大寺附近，ミズオトギリ，ムカゴニンジン，奈良蛙ヶ池，1932.10.2.マツモ，Ukigenosawa (雪消の沢?) 1934.6.26.ホッスモ，トリゲモ，ウリカワ，ヤナギスブタ，クロモ・クルマモ，ミズヒキモ，イトトリゲモ (大和植物志にも記載あり)，ヒ

シ、西大寺附近水田もしくは池、ウキクサ、大和郡山、マルバオモダカ、奈良水上池、ガガブタ、フサタヌキモ、イヌタヌキモ、法華寺村水上池、1934.7.26.ヒルムシロ、西大寺附近、アオウキクサ、法華寺、1934.10.27.トリゲモ、タチモ、アサザ、フサタヌキモ、西大寺附近、ミズヒキモ、ノタヌキモ、奈良平城附近、ヤナギモ、オグラノフサモ、ガガブタ、キクモ、平城～山田川、1935.10.7.スブタ、平城である。三木は足繁く野外の観察に出かけ、水草の一生を通して観察を行った(瀬戸、1978)。

注3)「宇野確雄植物コレクション」には、久米道民の標本が多く収まっている。採集地はサハリンをはじめ広範囲にわたっている。このコレクションの目録は現在10号まで刊行されているが、まだ続刊中である。久米の奈良県での採集、宇野との関係など、今後の研究課題である。

#### 参考文献

- 伊藤洋 (1974). 標本ラベルから逆にたどった牧野富太郎博士の採集年表. 『植物研究雑誌』49: 285-288.
- 岡本勇治 (1937→1997). 『大和植物志』覆刻版 (大和精版印刷).
- 奥山春季 (1951). 日本区域別フローラ文献目録. 『国立科学博物館集報』4: 24-26.
- 角田充 (1992). フォーリー神父植物採集年譜. 『植物分類地理』43(1): 59-74.
- 川端 一弘 (2001). 新たに見つかった岡本勇治の調査報告. 『奈良植物研究会会報』74: 13-15.
- 北川尚史 (1990). 奈良県植物研究史. 『奈良県史 2 動物・植物』(名著出版), 181-228.
- 北川尚史 (1997). 岡本勇治, 奈良県植物研究の先覚者. 『大和植物志』覆刻版 (大和精版印刷), 1-11.
- 倉敷市立自然史博物館 (1996-2001). 宇野確雄植物コレクション(5)-(10). 『倉敷市立自然史博物館収蔵資料目録』5-10.
- 瀬戸剛 (1978). 三木茂先生の水草標本について. 『三木茂博士寄贈水草腊葉標本目録』42. (〒631-0045 奈良市千代ヶ丘3丁目1-60)